

の動かし方で馬に指示を出し、馬がそれに従うんです。それには正直、驚きましたね」。その後、彼の秘密を知るべく、彼に従った。当時、弟子としてとっているのは彼女一人のみであったという。多くの経験を経て、帰国したが、ドイツではモンテイに対する評価は必ずしもいいものとはいえなかった。というのも、モンテイはジョーのように彼のメソッドを紹介する。この問題に関しては、この対処法があるというようにだ。それは、見ている側からすると、マジックのような信憑性のないものとして受け取られた。そこで、アンドレアはドイツの馬社会を調査した上で、モンテイの理論を体系的な調教と、鞭を使った調教の中和を図り、学術的に体系化しようとして試みた。知識と経験として実践を通してより確実な理論を伝える決意をしたのだ。「学術的知識を踏まえて、馬の脳はどうなっているのか、このときは馬がどう反応するのか、などを学び、乗馬の選手が実際どのように馬をコントロールしたらいのかを伝える必要を感じました」。野生の馬の研究や9000の厩舎を所有するケウル・シヨッケメーレと協力し、4000頭にわたるさまざまな種の馬について研究した。そうして多くの知識を得、実践を得た上で、モンテイのやり方とは別の独自の理論を築き、アカデミーも開設した。

180ある彼女のメソッドすべてをこの誌面では残念ながら

馬とのコミュニケーションを私は教えられます。

The Secret of the great power is in Good horses!

Andrea Kuitsch

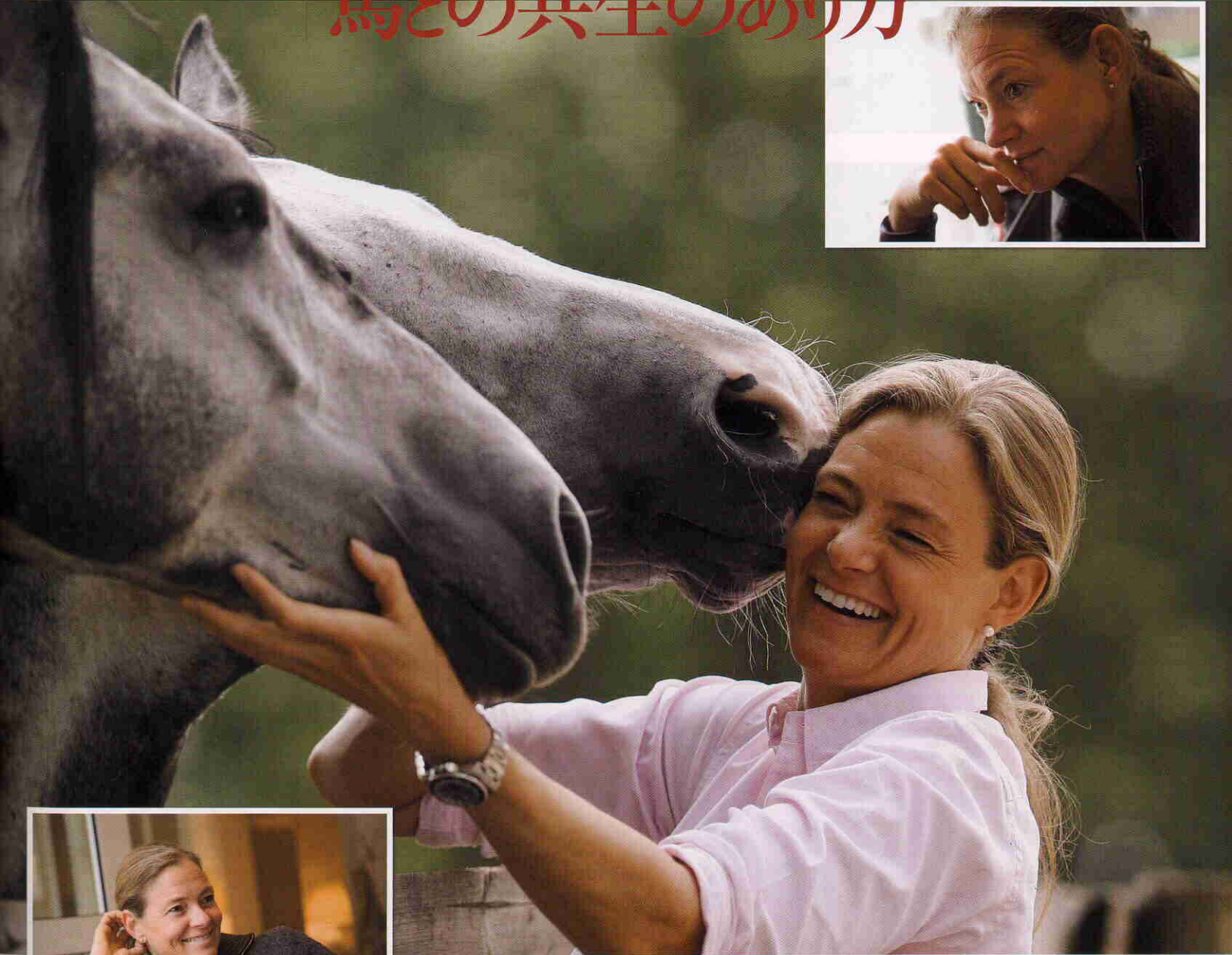
えきれないので、あえて代表的なものをあげると、「馬とは目をあわせない」というものがある。目を合わせることは馬にとって「立ち去れ」という合図になるといいます。目を合わせると威圧感を与える。本当に伝えたいことがあるときは目を合わせずに信頼関係を築いてから、エネルギーを伝えるのだという。

彼女の理論は伝え始めてから4年の時を経て、今では国家資格として認定されている。その資格を唯一取得できる彼女のアカデミーは、2012年まで取って生徒を受け入れていない。彼女自身は求められればどの国にでも行って教えたいからだ。スペインにもトレーニング場をもつが、彼女自身2ヶ月でスペイン語をマスターし、その場を開いた。ドイツの伝統的な調教方法を乗り越える難しさを感じつつ、馬のコミュニケーション術を伝え続ける彼女。「夢は信じてれば実現します」と自身の経験から熱く語る彼女は、今後日本語をマスターして日本で学校を開きたいとも話してくれた。

アンドレアにかかると、馬たちは心を開く。神秘的なメソッドではなく、多種にわたる何千頭の馬たちに実際に接した上での理論を展開した。「基本理論は馬を扱う全ての人に興味深い。馬を扱う人の教育を世界的に進めていきたい」と語る彼女。

馬と話す男、モンティ・ロバーツの愛弟子

アンドレア・クッチュに聞く、 馬との共生のあり方



ドイツの伝統への
革新を遂げる、夢の実現

モンティ・ロバーツといえば、映画「モンタナの風に抱かれて」の主人公のモデルになった人物と言われる。馬語を操るとされる彼は、馬と心を通わせる達人として知られる。その彼のもとで10年間学び、彼と一緒に世界中を回って馬のトレーニングに携わった一人の女性がいる。アンドレア・クッチュは、30歳の頃にかねてから感じていた馬とのあり方に関する疑問を解くため、一念発起してドイツからモンティのいるアメリカに飛んだ。彼女の中にとつとあった疑問。それは、鞭を使って馬をおびえさせながら調教すること、馬が返事をしないと力での接し、結果的に馬も暴力的になることだった。「鞭や暴力は自然界には存在しないですよ」と真摯にかつ穏やかに語りだす彼女。「自分も、疑問を持ちながらドイツの伝統的なドレッツサーージュやジャンピングなどをやっていました。そしてモンティの著作に出会い、彼が『馬同士が対話するのであれば、人とも対話することが可能じゃないか』という語る言葉に共感を覚えたんです。このときに、いままであれこれとあった多くの疑問のモザイクが合わさって1つになるという確信をもてたんですね」。モンティの語る言葉の背景には何があるのかを知りたくて、彼女はすぐに彼にアポイントを取った。「実際に彼が馬を調教するシーンを見て、鞭をつかわずに、目や手